

少人数企画会議における，とりまとめ役の 談話管理スタイル 1

——とりまとめ役の発話単位量とムーブの観点から——

渡 邊 ゆかり

1. は じ め に

近年，異なる文化間でのビジネス場面における会議スタイルの相違やビジネス場面における会議のファシリテーションに関心が持たれるようになってきた。ビジネス場面の会議談話を扱った先行研究からは，ビジネス場面での少人数の日本人同士の会議において，同一トピックが循環する傾向にあること，結論を先延ばしにする傾向にあることが指摘されている（cf. 近藤2004, 李2007）。しかしながら，会議のファシリテーションに影響を与える，とりまとめ役の談話管理スタイルについての研究は少ない。

従って，本研究では，日本人同士の少人数企画会議における，とりまとめ役の談話管理スタイルについて，「とりまとめ役の発話単位量」「とりまとめ役の発話単位の間隔」「とりまとめ役の実質的発話単位内に見られるムーブ」の三点から調査分析を行った。

2. 先 行 研 究

著者の菅見する限り，ビジネス場面での日本人同士の少人数会議において，とりまとめ役がどのように談話管理を行っているかに焦点を当てた先行研究は存在しない。しかし，行政が運営する日本語ボランティアグループのメンバーが日ごろの活動について意見交換を行うことを目的としたミーティングにおいて，行政担当者である司会者がどのように談話管理を行っているかを分析したものに森下（2000）が存在する。

森下は，司会者の談話管理の仕方について「司会者は『今ここで話すべきことは何か』という規則を暗に示すことによって，能率よくミーティングが進行するよう管理している」と分析している。また，「司会者とボランティアの相互行為に『情報収集者／情報提供者』『語りかけられているもの／間接的な標的¹』という非対称性が観察されること」「発話の配分がグループ内

のヒエラルヒーの順番に構造化されていること」を明らかにしている。

本研究では、ビジネス場面における企画を目的とした日本人同士の少人数会議においてとりまとめ役がどのように談話を管理しているのかを、1で提示した三つの観点から分析するが、その際、森下が提示した、これらの特性についても考慮する。

3. 調査方法

3.1 調査対象

本研究の調査では、技術研究組合新情報処理開発機構の提供する「RWCP 会議音声データベース (RWCP-SP01)」²⁾に収められている七つの模擬会議のうち、同じ社の社員同士で行う企画会議という設定にあり、企画内容の立案や検討を目的としており、とりまとめ役以外の話者に対して、事前に個々の考え方に関するインストラクションを行っていない、会議1、会議2、会議7を使用した。

pp. 2-3 の表1－表3は、RWCP-SP01 に格納されている本データベースの内容に関する説明資料に基づき、会議1、会議2、会議7の設定をまとめたものである。本研究では、以後、これらの会議データを順に、調査対象1、調査対象2、調査対象3と呼ぶこととする。表1－表3中の話者のうち下線を施したものは、設定上、各会議において社内における地位が他の話者より上位にあり、他者の意見をとりまとめる役割を担っている。本研究では、これらの話者を、以後、とりまとめ役と呼ぶ。

各会議における収録環境は、p. 4 の図1、図2の通りである。図1に示した調査対象1、調査対象2と図2に示した調査対象3とでは、机の数と配置

表1 調査対象1 (RWCP-SP01 の会議1) の設定

種類	旅行会社における特別ツアーの企画会議1
時間	1, 289, 130 ms
話者	m01 (旅行会社横浜支社の企画課課長), m02 (同課社員), m03 (同課社員), f01 (同課社員) の計4名
場面	<ul style="list-style-type: none">● 本社より、会社設立40周年記念行事の一環として、特別企画ツアーの立案が各支社の企画部門に対して要請された。企画は、本社でコンベを行い、採用を決定する。● これを受けた企画課 m01 課長は、第1回の企画検討会議を開催した。● m01 課長は、今日の会議で、今後の企画立案のためのメンバーの意見を吸い上げ、大まかな方向性と今後の進め方を決めたいと考えている。

表 2 調査対象 2 (RWCP-SP01 の会議 2) の設定

種類	旅行会社における特別ツアーの企画会議 2
時間	1, 147, 480 ms
話者	m03 (旅行会社横浜支社の企画課課長), f03 (同社社員), m04 (同社社員), f02 (同社社員) の計 4 名
場面	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社より、会社設立40周年記念行事の一環として、特別企画ツアーの立案が各支社の企画部門に対して要請された。企画は、販売のセグメント対応で各支社に割り当てられ、横浜支社に対しては、20代から30代の女性にターゲットを絞った企画の立案が要求されてきた。 ● また、本社からこの企画はこれまで企画に携わっていない女性を中心にプロジェクトを組み、斬新な企画の立案をさせたいとの意向が伝えられている。

表 3 調査対象 3 (RWCP-SP01 の会議 7) の設定

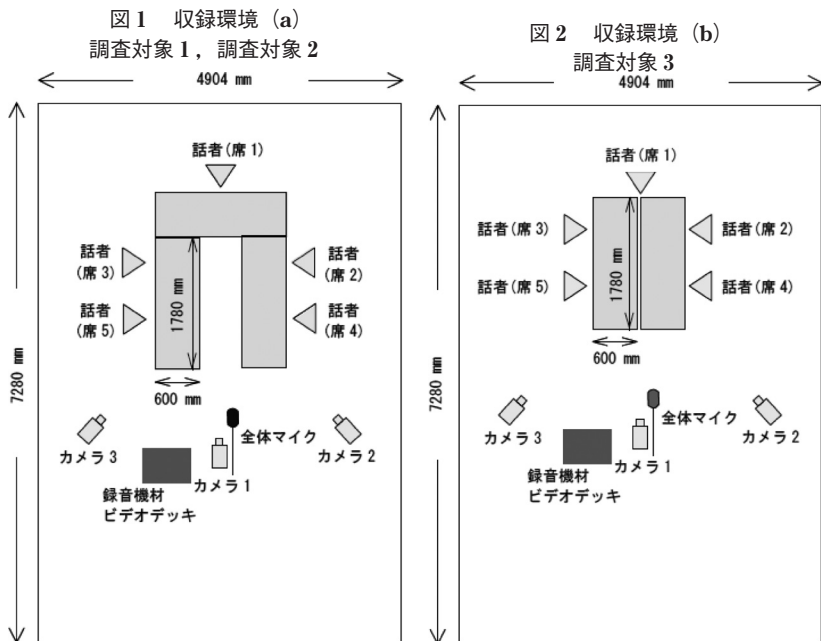
種類	旅行会社のホームページの企画会議 3
時間	1, 987, 890 ms
話者	f04 (デジタルメディアグループ主任), f02 (同グループメンバー), m12 (同グループメンバー), f12 (同グループメンバー), m11 (同グループメンバー) の 5 名
場面	<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットでの宣伝、顧客の囲い込み、新規顧客の開拓、電子商取引への対応を図るため、新たに、デジタルメディアグループが設立され、最初の大きな仕事として、ホームページの見直しを行うことになり、広告代理店に企画作成を依頼した。代理店はこれを受け、まず、ラフな案を提案してきた。 ● 今日の会議は、この案についてのデジタルメディアグループとしての意見をまとめ、代理店と検討を行うための、担当者会議である。 ● この中では f04 が主任という肩書きだが、他のメンバーとの間に強い上下関係はない。

が若干異なるものの、いずれも、席 1 の左右前方に席 2－席 5 が配置されており、とりまとめ役は席 1 に座っている。

また、各模擬会議実施時点での話者の背景は、p. 4 の表 4 の通りである。

表 4 のように、話者は、いずれも他の話者のいずれかと、実際の上司と部下の関係、もしくは同僚関係にある。ただし、会議のとりまとめ役となった話者で、他の話者の実際の部下に当たる者は存在しない。

以上、3.1 では、本研究の調査対象について説明を行った。次に、本研究における分析観点について述べる。



(RWCP-SP01 に関する説明資料より抜粋) (RWCP-SP01 に関する説明資料より抜粋)

表 4 各模擬会議実施時点での、話者の背景

	話者 ID	席順	性別	職 業	年齢	備 考
調査対象 1	m01	1	男	旅行会社勤務	38	話者 m02 は実際の部下
	m02	2	男	旅行会社勤務	27	話者 m01 は実際の上司
	m03	3	男	会社員	42	話者 f01 は実際の部下
	f01	4	女	会社員	24	話者 m03 は実際の上司
調査対象 2	m03	1	男	会社員	42	話者 m04 は実際の部下
	f03	2	女	旅行会社勤務	25	話者 f02 は実際の同僚
	m04	3	男	会社員	31	話者 m03 は実際の上司
	f02	4	女	旅行会社勤務	25	話者 f03 は実際の同僚
調査対象 3	f04	1	女	旅行会社勤務	32	話者 f02 は実際の同僚
	f02	2	女	旅行会社勤務	26	話者 f04 は実際の同僚
	m12	3	男	会社員	34	話者 f12, m11 は同じ会社の同一部署
	f12	4	女	会社員	22	話者 m12, m11 は同じ会社の同一部署
	m11	5	男	会社員	38	話者 m12, f12 は同じ会社の同一部署

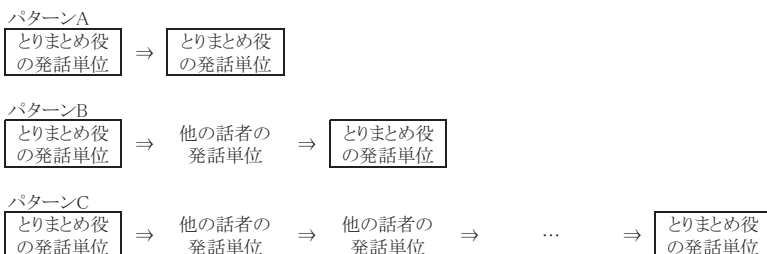
3.2 分析観点

本研究では、調査対象1－調査対象3の会議の書き起こしデータについて、とりまとめ役の談話管理の強弱と関わる、「とりまとめ役の発話単位量」「とりまとめ役の発話単位の間隔」「とりまとめ役の実質的発話単位内に見られるムーブ」の三つの観点から調査を行った。以下、これら三つの観点について補足説明を行う。

まず、一つ目の「とりまとめ役の発話単位量」であるが、ここで言う「発話単位」とは、RWCP-SP01の規定する「一人の話者が、相手へ発言権を譲渡するまで発声した、一連の音声区間」に当たる。この発話単位の認定は、RWCP-SP01の説明資料によれば、図1、図2の全体マイクで録音された音声に対して、聴取によりなされているということである。なお、談話研究の中には、杉戸（1987：p. 88）の規定する「あいづち的発話」³を、発言権のある発話として認めない立場もある⁴が、RWCP-SP01では、他の話者の発話中に挿入されていない、あいづち的発話のみからなる発話のまとまりも、独立した発話単位として認定している。本調査においても、RWCP-SP01と同様、このような発話を発言権のある、独立した発話単位として扱う。本調査では、各会議における各話者のこのような発話単位の獲得回数、各話者の発話単位の総時間、各話者の1発話単位当たりの平均時間を調査した。その際、各話者の発話単位の総保有時間は、RWCP-SP01の発話単位データに記載されている、個々の発話単位の開始時刻と終了時刻より算出した⁵。

次に、「とりまとめ役の発話単位の間隔」であるが、本調査では、とりまとめ役の発話単位が他の話者の発話単位に移動し、再びとりまとめ役の発話単位に移動するまでの間に挿入される、他の話者の発話単位数を調べた。とりまとめ役が発言権を再取得するまでの発話単位の移動経路には、大きく、次の図3に示すABCの三つのパターンが存在する。

図3 とりまとめ役が発言権を再取得するまでの発話単位の移動経路



各々の具体例を挙げると、まず、図3のパターンAに相当するものとしては、次の例（1）が挙げられる。なお、例（1）の左1列目には発話番号を、左2列目には話者IDを記載した。また、話者IDのうち、とりまとめ役のIDには下線を施した。以後、発話例を挙げる際は、同様の記載方法を用いる。

例（1）

60	<u>m03</u>	じゃあ、頑張ってください。{f02 090 B}
61	<u>m03</u>	で、[えっとー]、どういうふうに進めますかねえ、まず、もう少し三人で、{m04 027 ん} 場所の話をしていくのか、企画の方からもう少し固めていくのか、それはどうでしょうか。 {f03 089 ん}

（調査対象2）

例（1）では、とりまとめ役 m03 の60番の発話単位と61番の発話単位が連続している。RWCP-SP01の説明資料には、同一話者の発話の連続を、二つの単位に分割する際の基準は示されていないが、ポーズの長さ等が関与しているものと考えられる。本調査においてはこのような、とりまとめ役の発話単位が連続するパターンを、「とりまとめ役の発話単位間に現れる他者の発話単位数」が0のパターンとして扱う。

次に、図3のパターンBに相当する例としては、次の例（2）が挙げられる。

例（2）

4	<u>f04</u>	景色とか
5	m11	そうですね。ええ。
6	<u>f04</u>	ホテルの 外観だけじゃなくて、お料理の写真とか、

（調査対象3）

例（2）では、とりまとめ役 f04 の4番の発話単位と6番の発話単位の間に m11 による5番の発話単位が挿入されている。

最後に、図3のパターンCに相当する例としては、次の例（3）が挙げられる。

例 (3)

42	f04	食べ物にしても、旬の 食べ物とかありますもんね。
43	f12	そうですねー。
44	m11	外しちゃうと食べれませんからね。{f12 057 <ハハハハ>}
45	f04	そうですね。{m11 194 <フフフフン>}

(調査対象 3)

例 (3) では、とりまとめ役 f04 の42番の発話単位と45番の発話単位の間、f12 による43番の発話単位と m11 による44番の発話単位が挿入されている。

なお、例 (3) の場合、「とりまとめ役の発話単位間に現れる他者の発話単位数」は2単位であるが、「とりまとめ役の発話単位間に現れる他者の発話単位数」が2単位以上の場合は、パターン C に該当する。

本調査では、各会議について、図3のパターン A、パターン B に該当する「とりまとめ役の発話単位間に現れる他者の発話単位数」が1単位以下の箇所の数と、図3のパターン C に該当する「とりまとめ役の発話単位間に現れる他者の発話単位数」が2単位以上の箇所数を比較した。なお、次の例 (4) のように、とりまとめ役以外の話者の発話単位で会議が終了している部分については、いずれの箇所にも該当しないものとした。

例 (4)

164	f04	はい。お疲れ様でした。
165	f02	お疲れ様です。

(調査対象 2)

最後に、三つ目の観点の「とりまとめ役の実質的発話単位内に見られるムーブ」であるが、本研究では、津田 (1989 : pp. 418-419)、中田 (1990 : pp. 112-118) の定義に準じ、ムーブ (move) を、「質問、陳述、要求など、相手に対してどのような働きかけをするかという機能的な単位」として位置付けた。本調査では、まず、調査対象ごとに、とりまとめ役の実質的発話を含む発話単位 (以後、実質的発話単位と称す) 数とあいづち的発話のみからなる発話単位 (以後、あいづち的発話単位と称す) 数を算出した後、各会議にお

ける，とりまとめ役の実質的発話単位に含まれるムーブのバリエーションを抽出した。その後，各調査対象のとりまとめ役の実質的発話単位において，どのムーブを含む実質的発話単位がより多く含まれているのかを調査した。

以上，3では，本研究で行った調査の三つの分析観点について説明を行った。次の4では，これらの観点に基づく調査結果を示していく。

4. 調 査 結 果

4.1 とりまとめ役の発話単位数

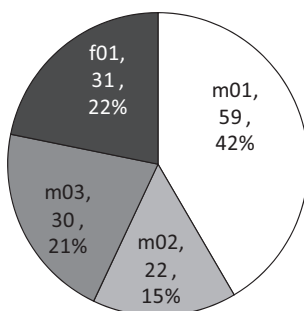
ここでは，3.1で挙げた，調査対象1－調査対象3における「各話者の発話単位数」「各話者の発話単位総時間」「各話者の1発話単位当たりの平均時間」を比較していく。

まず，「各調査対象における各話者の発話単位数」から見ていく。

各調査対象における各話者の発話単位数は，以下に挙げる，グラフ1－グラフ3の通りである⁶。なお，各グラフの白い部分は，とりまとめ役の発話単位数に相当する。

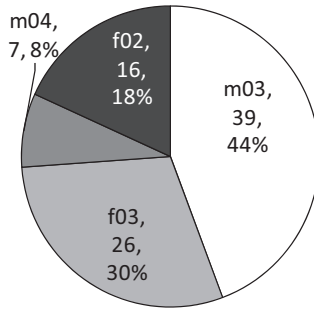
一つ目の調査対象1については，グラフ1より，とりまとめ役 m01 の発話単位数の数値が最も高いことがわかる。また，とりまとめ役 m01 と2番目に数値の高い f01 との発話単位数の比率の差は，20ポイントである。

グラフ1 調査対象1における各話者の発話単位数



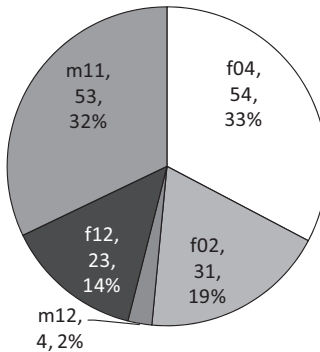
二つ目の調査対象2についても，次のグラフ2より，とりまとめ役 m03 の数値が最も高いことがわかる。また，とりまとめ役 m03 と2番目に数値の高い f03 との発話単位数の比率の差は，14ポイントである。

グラフ 2 調査対象 2 における各話者の発話単位数



三つ目の調査対象 3 についても、次のグラフ 3 より、とりまとめ役 f04 の数値が最も高いことがわかる。ただし、とりまとめ役 f04 と 2 番目に数値の高い m11 との発話単位数の比率の差は、わずか 1 ポイントであった。

グラフ 3 調査対象 3 における各話者の発話単位数



以上より、「とりまとめ役とその他の話者の発話単位数」については、いずれの調査対象においても、とりまとめ役の発話単位数の値が一番高いことがわかる。ただし、三つの調査対象のうち、調査対象 3 については、とりまとめ役と 2 番目に発話単位数の値の高い話者との差はわずか 1 単位、比率にするとわずか 1 ポイントであった。また、各調査対象のとりまとめ役のうち、発話単位数の比率が最も高かったのは、調査対象 2 の m03 であった。

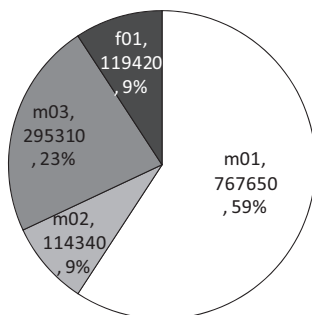
次に、「各調査対象における各話者の発話単位総時間」について見ていく。

各調査対象における各話者の発話単位総時間は、以下に挙げる、グラフ 4－グラフ 6 の通りである。なお、先と同様、各グラフの白い部分はとりまとめ

役の発話単位総時間に相当する。

一つ目の調査対象 1 については、次のグラフ 4 より、とりまとめ役 m01 の数値が最も高いことがわかる。

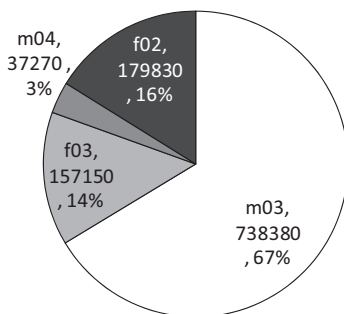
グラフ 4 調査対象 1 における各話者の発話単位総時間 (ms)



また、とりまとめ役 m01 と 2 番目に数値の高い m03 との発話単位総時間の比率の差は、36ポイントである。

二つ目の調査対象 2 についても、次のグラフ 5 より、とりまとめ役 m03 の数値が最も高いことがわかる。

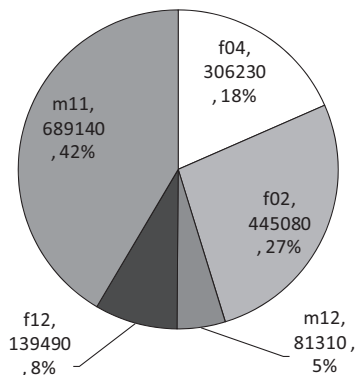
グラフ 5 調査対象 2 における各話者の発話単位総時間 (ms)



また、とりまとめ役 m03 と 2 番目に数値の高い f02 との発話単位総時間の比率の差は、51ポイントである。

三つ目の調査対象 3 については、次のグラフ 6 より、先の二つの調査対象とは異なり、とりまとめ役 f04 ではなく、m11 の数値が最も高いことがわかる。

グラフ 6 調査対象 3 における各話者の発話単位総時間 (ms)



2 番目に数値が高いのも、とりまとめ役 f04 ではなく、f02 であり、とりまとめ役の数値の高さは、3 番目である。最も数値の高い m11 ととりまとめ役 f04 との発話単位総時間の比率の差は、24ポイントであった。

以上より、「各話者の発話単位総時間」については、各調査対象のうち、調査対象 1 と調査対象 2 において、とりまとめ役の数値が最も高いことがわかる。いずれも、すべての話者の発話単位総時間を合計した値の 5 割以上であった。一方、調査対象 3 では、とりまとめ役よりも発話単位総時間の数値の高い話者として m11 と f02 の 2 名が存在した。また、各調査対象のとりまとめ役のうち、発話単位総時間の比率が最も高かったのは、調査対象 2 の m03 であった。

最後に、「各話者の 1 発話単位当たりの平均時間」について見ていく。

各調査対象における各話者の 1 発話単位当たりの平均時間は、次の表 5 の通りであった。

表 5 調査対象 1－調査対象 3 における各話者の 1 発話単位当たりの平均時間

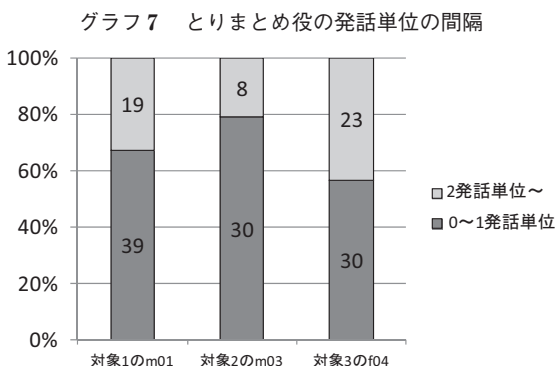
調査対象 1		調査対象 2		調査対象 3	
m01	13,011 ms	m03	18,933 ms	f04	5,671 ms
m02	5,197 ms	f03	6,044 ms	f02	14,357 ms
m03	9,844 ms	m04	5,324 ms	m12	20,328 ms
f01	3,852 ms	f02	11,239 ms	f12	6,065 ms
				m11	13,003 ms

表5より、調査対象1と調査対象2では、いずれもとりまとめ役の数値が最も高いのに対し、調査対象3では、とりまとめ役の数値が最も低いことがわかる。

以上、4.1では、調査対象1－調査対象3における、「各話者の発話単位数」「各話者の発話単位総時間」「各話者の1発話単位当たりの平均時間」を比較した。次の4.2では、とりまとめ役の発話単位間に挿入される他の話者の発話単位数を、調査対象1－調査対象3で比較する。

4.2 とりまとめ役の発話単位の間隔

以下のグラフ7は、調査対象1－調査対象3の各々における、とりまとめ役の発話単位間に挿入される他の話者の発話単位が「0単位もしくは1単位の箇所の出現頻度」と「2単位以上の箇所の出現頻度」ならびに両者の比率を示している。



グラフ7より、調査対象2では、とりまとめ役から他の話者に移動した発話単位が別の話者の発話単位に移動せず、再びとりまとめ役の発話単位に移動する傾向が最も強く、調査対象3では、この傾向が最も弱いことがわかる。

また、とりまとめ役の発話単位間に含まれる他の話者の発話単位数の最大値は、調査対象1が4、調査対象2が3、調査対象3が13であった。この値からも、調査対象3では、調査対象1、調査対象2に比べ、とりまとめ役の発話単位を介さず、他の話者間で発話単位が異動する傾向が強いことがわかる。

以上、4.2では、とりまとめ役の発話単位間に挿入される他の話者の発話単位数を、調査対象1－調査対象3で比較してきた。次の4.3では、調査対象1－調査対象3における、とりまとめ役の実質的発話単位内に見られるムーブを比較する。

4.3 とりまとめ役の実質的発話単位内に見られるムーブ

とりまとめ役の発話単位には、あいづち的発話のみからなる単位と、実質的発話のみからなる単位と、実質的発話とあいづち的発話の混在する単位が存在する。ここでは、一つ目のあいづち的発話のみからなる単位をあいづち的発話単位と呼び、二つ目と三つ目の、実質的発話のみからなる単位、実質的発話とあいづち的発話の混在する単位を、実質的発話単位と呼ぶこととする。また、本研究では、杉戸（1987）、大浜・西村（2005）、吉田・高梨・伝（2009）を参考に、以下の表6の①－⑦を、あいづち的発話形式とみなす。

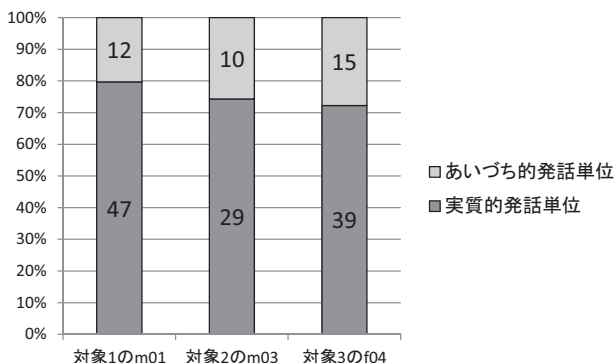
表6 あいづち的発話形式

I 同意・確認系	①「うん」「はい」「ええ」などのいわゆるあいづち詞。
	②「なるほど」「本当」「確かに」「そうですね」などの同意を示す慣用表現。
	③他の話者の発話の一部、もしくは全体を繰り返す表現。相手の発話に対する同意として「ね」「ですね」「ですよ」が付加されているものも含む。
	④相手の発話の一部、もしくは全体を言い換えている表現。相手の発話に対する同意として「ね」「ですね」「ですよ」が付加されているものも含む。
II 感情表出系	⑤「えーっ」「まあ」「へえー」などの感動詞。
	⑥相手の発話に対する「おもしろい」「すごい」などの感情表出表現。ただし、聞き手への伝達モダリティとして働く「ね」「ですね」「ですよ」が付加されているものを除く。
III 先読み系	⑦相手の発話の続きを先取りしている表現。

まず、本規定に基づき、各調査対象におけるとりまとめ役の実質的発話単位数とあいづち的発話単位数を調べたところ、p. 14 のグラフ8の通りであった。

グラフ8より、とりまとめ役の実質的発話単位数の割合の高さは、調査対象1、調査対象2、調査対象3の順であるものの、各調査対象間にそれほど大きな差は見られないことがわかる。

グラフ 8 とりまとめ役の実質的発話単位数の割合



次に、各調査対象におけるとりまとめ役の実質的発話単位内に、どのようなムーブが含まれているかを調査したところ、表7の左列に示した18種類が存在した。また、各ムーブを含む、とりまとめ役の実質的発話単位数は、表7右3列の通りであった。

表7 とりまとめ役の実質的発話単位内に存在するムーブと各ムーブを含むとりまとめ役の実質的発話単位数

ムーブの種類	対象1の m01	対象2の m03	対象3の f04
1) 参集についてのお礼や労い	3/47 (6%)	1/29 (3%)	1/39 (3%)
2) 開始宣言	0/47 (0%)	1/29 (3%)	1/39 (3%)
3) 会議の趣旨説明	1/47 (2%)	1/29 (3%)	1/39 (3%)
4) 意見要求課題の提示	7/47(15%)	13/29(45%)	4/39(10%)
5) 意見提示要求	10/47(21%)	13/29(45%)	5/39(13%)
6) 意見要求課題に対する方向性の提示	5/47(11%)	4/29(14%)	1/39 (3%)
7) 先行発話、現行発話に関する確認や質問	4/47 (9%)	2/29 (7%)	10/39(26%)
8) 先行意見を支持する情報や見解の提示	10/47(21%)	6/29(21%)	11/39(28%)
9) 先行意見に対する問題や課題や懸念の提示	8/47(17%)	9/29(31%)	9/39(23%)
10) 先行意見を発展させた意見提示	1/47 (2%)	1/29 (3%)	3/39 (8%)
11) 先行意見と対立する意見提示	4/47 (9%)	0/29 (0%)	1/39 (3%)
12) 確認や質問に対する回答	6/47(13%)	2/29 (7%)	1/39 (3%)
13) 先行意見の分類や比較	4/47 (9%)	1/29 (3%)	0/39 (0%)
14) 今後の作業方針の提示	3/47 (6%)	8/29(28%)	3/39 (8%)
15) 自らの今後の作業提示	3/47 (6%)	1/29 (3%)	2/39 (5%)

16) 今後の作業依頼	12/47(26%)	7/29(24%)	0/39 (0%)
17) 今後の作業の励まし	0/47 (0%)	2/29 (7%)	0/39 (0%)
18) 次の会議の案内や参集の依頼	1/47 (2%)	2/29 (7%)	0/39 (0%)

表中の数値の「 / 」の左側は、各ムーブを含む実質的発話単位数に相当し、右側は、グラフ 8 に示した実質的発話単位数に相当する。また、() 内は、各とりまとめ役の実質的発話単位数を分母とした場合の、各ムーブを含む発話単位の比率を示している。なお、各ムーブを含む発話単位数は、以下の方針のもとにカウントした。

- ①特定の発話に 2 種類以上のムーブが認められる場合も、その発話を含む発話単位を、各ムーブを含む発話単位として扱う。
- ②同じ種類のムーブが一つの発話単位内に複数回現れている場合でも、そのムーブを含む発話単位数は 1 単位としてカウントする。
- ③一つのムーブが二つ以上の発話単位に分割して現れている場合は、分割された発話単位の数をそのムーブが含まれる発話単位数としてカウントする。

表 7 に挙げたムーブのうち、とりまとめ役の実質的発話単位の 40% 以上に含まれていたものは、「4) 意見要求課題の提示」と「5) 意見提示要求」で、いずれも調査対象 2 の m03 の実質的発話単位の 45% に含まれていた。次の例 (5) は、これらのムーブを有する m03 の発話単位の具体例に相当し、「場所的なアイデア」の部分が意見要求課題を、「ないかな」の部分が意見提示要求を表している。

例 (5) 「4) 意見要求課題の提示」「7) 意見提示要求」

13	m03	何か、場所的なアイデアで他にないかな
----	-----	--------------------

(調査対象 2)

このように、これらのムーブは、談話のトピックや参加者の発言権を制御する働きを担っている。これらのムーブを含む発話単位の比率は、m01, m03, f04 の中では、m03 が最も高く、m01, f04 が順にこれに続く。これらのムーブを含む発話単位の比率について、m03 とその他のとりまとめ役との間には、

以下の差が存在した。

「4) 意見要求課題の提示」を含む発話単位の比率

m03 > m01 の差 30ポイント

m03 > f04 の差 35ポイント

「5) 意見提示要求」を含む発話単位の比率

m03 > m01 の差 24ポイント

m03 > f04 の差 32ポイント

このように、m03 とその他の話者とでは、これらのムーブを含む発話単位の比率にある程度の開きが存在する。

従って、以上より、m03 は、m01 や f04 に比べ、談話のトピックや談話の参加者の発言権をコントロールしようとする姿勢が強いと見ることができる。また、反対に、m03 との差が最も大きい f04 は、3 者の中では、このような姿勢が最も弱いということができる。

続いて、表 7 に基づき、それぞれのとりまとめ役の発話単位に見られるムーブの特徴について見ていく。

まず、調査対象 1 のとりまとめ役 m01 であるが、m01 の場合、最も多くの発話単位に現れたムーブは、26%の「16) 今後の作業依頼」である。次の例 (6) は、この具体例に相当する。

例 (6) 「16) 今後の作業依頼」

94	m01	[ん] のがあるんで、[えーと] じゃ、これごめんなさい。[あの] 郵船クルーズに電話して {m03 251 B} {m02 089 <ハ>} {f01 157 <アハハハ>} {m02 090 はい} 調べといってくれるかな。
----	-----	--

(調査対象 1)

例 (6) では、m01 は、特別ツアーの企画として、船旅を提案した m02 に対し、この案を具体化するための作業を依頼している。m01 の発話単位の中に、この種のムーブが比較的によく現れたのは、調査対象 1 が「m01 課長は、今後の企画立案のためのメンバーの意見を吸い上げ、大まかな方向性と今後の進め方を決めたいと考えている」という設定にあるためと考えられる。

m01 の発話単位に見られたムーブで、次に多かったものは、21%の「5）意見提示要求」ならびに「8）先行意見を支持する情報や見解の提示」である。次の例（7）、例（8）は、順にこれらの具体例に相当する。

例（7）「5）意見提示要求」

11	m01	[えー] じゃあ石川さんはどうでしょうか。
----	-----	-----------------------

（調査対象1）

例（8）「8）先行意見を支持する情報や見解の提示」

13	m01	[ん]（そうだ）そうですね。[あのー] 豪華客船なんかも、いい部屋から埋ってくっという {m03 036 そうですね。}
----	-----	--

（調査対象1）

「5）意見提示要求」が相対的に「16）今後の作業依頼」を除く他のムーブよりも多くの発話単位に見られることから、m01 も、調査対象2の m03 ほどではないが、積極的に他の話者の発言権を制御しようと試みていることが伺える。また、「8）先行意見を支持する情報や見解の提示」も相対的に「16）今後の作業依頼」を除く他のムーブよりも多くの発話単位に見られることから、とりまとめ役として、積極的に他の話者の意見の分析・評価を行おうとしていることが伺える。

次に、調査対象2の m03 であるが、m03 の場合、最も多くの発話単位に現れたムーブは、45%の「4）意見要求課題の提示」ならびに「5）意見提示要求」であり、先述のように、他のとりまとめ役に比べ、談話のトピックや他の話者の発言権を、より強く制御しようとしている。

この他、m03 のムーブで20%以上の値をマークしているものとしては、21%の「8）先行意見を支持する情報や見解の提示」、31%の「9）先行意見に対する問題や課題や懸念の提示」、28%の「14）今後の作業方針の提示」、24%の「16）今後の作業依頼」の4種類が挙げられる。次の例（9）の太字部分、例（10）、例（11）の太字部分、例（12）の太字部分は、順にこれらの具体例に相当する。

例（9）「8）先行意見を支持する情報や見解の提示」

21	m03	んー、それを、[あの一] 年寄りのおやじ達が許してくれるかどうかはよく分かんないけど、[まあ、{f03 034 B {f03 035 ああそ あの一}], 年上を狙った企画は別にやってるらしいから、若い人向けてことで、[まあ] はしゃいじゃってもいいのかも知れないし、そこら辺はもうほんとに自由な発想でやってもらいたいんだけど、で、渡邊君は何かその、秋 っっていつて思いつくような、あるいは、今まで行ったところで秋良かった っ っていう、[まあ、あの]、何かないかな
----	-----	---

（調査対象 2）

例（10）「9）先行意見に対する問題や課題や懸念の提示」

17	m03	でもなんかあれ かな、その、{f03 030 <へへ> 当社の四十周年企画で、合コンっっていうのは、本社が許すかどうかっのはちょっとあるかも知れないけどねえ {f03 031 <へっへっへ>
----	-----	--

（調査対象 2）

例（11）「14）今後の作業方針の提示」

72	m03	で、ついでに、ちょっとだけ、[えーっと] あと数分、[あの一] 話をしておきたいんだけど、[えーと]、これ、一応上手くいったら、その後も、継続してこういう、[えーと] 女性向けの、ただ、(じょ)ま、女性向けいっぱいですけどね。なんか [あの一]、これからなんか企画をどんどん続けてだしていききたい、ん っ っていうことらしいんで、で、そうなってくると、[えーとー] その後、また [えーと] 春物だとか、春、ですね、そういう話がでてるんで、[えーと]、上手く これ、軌道に乗せてそのまま、うちの、なにか、常に目玉 っ っていうことで進めていきたいと思うんです。で、なにか、そこら辺であと、今日決めとかなきゃいけないことはありますか。{f03 100 ん
----	-----	--

（調査対象 2）

例（12）「16）今後の作業依頼」

86	m03	はい、じゃあ、そういうことでよろしくお願ひします。じゃあ、来週の日曜日、十三時に「えーと」この場所でもう一度会議をやります。「えー」できれば、「あの一、え」、簡単に紙にまとめてきて「えー」下さい、{f03 116 はい} あんまり「あの」細かいことまで考えてくる必要ないけど {f02 105 はい} じゃ、そういうことで、どうも、今日はありがとうございました。{m04 040 あ、ありがとうございます。}
----	-----	--

（調査対象 2）

これらのうち、「8）先行意見を支持する情報や見解の提示」ならびに「9）先行意見に対する問題や課題や懸念の提示」は、ともに他の話者の意見の分析・評価を行うムーブであることから、m03 も、m01 と同様、積極的に他の話者の意見の分析・評価を行おうとしていることが伺える。

また、「14）今後の作業方針の提示」ならびに「16）今後の作業依頼」が 20%台をマークしているのは、調査対象 2 が「本社からこの企画はこれまで企画に携わっていない女性を中心にプロジェクトを組み、斬新な企画の立案をさせたいとの意向が伝えられている」という設定にあることが関係していると考えられる。

最後に、調査対象の f04 であるが、f04 の場合、相対的に他のムーブより多くの発話単位に現れたムーブとして、26%の「7）先行発話、現行発話に関する確認や質問」、28%の「8）先行意見を支持する情報や見解の提示」、23%の「9）先行意見に対する問題や課題や懸念の提示」の 3 種類が挙げられる。次の例（13）の 4 番、例（14）、例（15）は、順にこれらの具体例に相当する。

例（13）「7）先行発話、現行発話に関する確認や質問」

3	m11	ただ、もっと、詳細に色々な情報が、とれる様な形のものがあって欲しいな、要するに、「あの一」もっといろんな事が、見れると、もっと、興味を持って、「えー、その」こういうものに行ってみたいと思って頂けるんじゃないかなと。ホテルとか、旅館の外観とかでなくて、そして、もっと、その近くに、いろんなものが、どんなものがあるかとかっていうイメー
---	-----	---

		ジにどんどん リンクを辿って行くような形で、もっと見れる といいかなってというのは 思いますけど。{f04 018 あ}
4	f04	景色とか

(調査対象 3)

例 (14) 「8) 先行意見を支持する情報や見解の提示」

29	f04	[うーん,] そうですね。直接, 意見が反映されますね
----	-----	------------------------------

(調査対象 3)

例 (15) 「9) 先行意見に対する問題や課題や懸念の提示」

17	f04	[うーん], 四番だと私の意見では、ちょっと、旅行に対して の 興味を持ってる人が、どのくらい見てくれるかなっていう のが、不安 なんですよ。{f12 029 んー}
----	-----	---

(調査対象 3)

これらのムーブのうち、「8) 先行意見を支持する情報や見解の提示」なら
びに「9) 先行意見に対する問題や課題や懸念の提示」が20%台をマークして
いることから、f04 もまた、積極的に他の話者の意見の分析・評価を行お
うとしていることが伺える。さらに、m01, m03 においては10%未満の「7)
先行発話、現行発話に関する確認や質問」が20%台をマークしていることか
ら、f04 は、他のとりまとめ役と比べると、他者の発言をよりよく理解しよ
うとする姿勢が強いといえることができる。

5. まとめと今後の課題

4 の調査結果より、各調査対象のとりまとめ役のうち、発話単位量の比率
が最も高く、発話単位を再取得するまでの他者の発話単位数の比率が最も低
い m02 の実質的発話単位には、「意見提示要求」「意見要求課題の提示」が
他のとりまとめ役より多く含まれていることが明らかとなった。

一方、各調査対象のとりまとめ役のうち、発話単位量の比率が最も低く、
発話単位を再取得するまでの他者の発話単位数の比率が最も高い f04 の実質
的発話単位においては、これらのムーブを含む発話単位の比率は、他のとり
まとめ役より低かった。また、f04 の実質的発話単位には、他のとりまとめ役

に比べ、「先行発話、現行発話に関する確認や質問」が多く含まれていた。

これらの結果は、とりまとめ役が選択するムーブの種類が、とりまとめ役の発話単位量やとりまとめ役が各話者の発言権を制御する力と必ずしも無関係ではないことを示唆している。

この点については、さらに、とりまとめ役やとりまとめ役以外の話者が、個々の発話単位の中で、異なるムーブをどのように展開しているのかについて考察する必要がある。

また、本調査から、すべてのとりまとめ役に共通する特徴として、「先行意見を支持する情報や見解の提示」「先行意見に対する問題や課題や懸念の提示」といった、他の話者の意見の分析・評価を行うムーブが相対的に多く含まれていることが確認された。これらのムーブの使用率が、とりまとめ役の発話スタイルの特徴の一つと言えるか否かについても、とりまとめ役以外の話者の用いるムーブと比較する必要がある。

これらについては、今後の研究課題としたい。

追記：本稿は、言語処理学会第20回年次大会（2014年3月、北海道大学）における口頭発表「少人数企画会議における、とりまとめ役の談話管理スタイル—とりまとめ役の発話単位とムーブの観点から—」に基づいている。ただし、発表後、本研究におけるあいづち的発話の定義を明確化し、ムーブのカテゴリーの見直しを行った結果、発表論文集に示されているデータ数値やムーブのカテゴリーを部分的に修正することとなった。したがって、本稿で示されているデータ数値やムーブのカテゴリーは、言語処理学会第20回年次大会の発表論文集で示されたものと部分的に異なっている。なお、発表の折には、ご来場くださった方々から大変貴重なご意見を賜りました。この場を借り心より御礼申し上げます。

注

- 1 森下 (p. 73) は、話しかけている相手とは異なる、実際にメッセージを伝えたい相手を「間接的な標的」と呼び、その例として以下を挙げている。

(1. A) ちょっとすいません。

(2. ad) はい。

(3. A) 先週なんですけれど、来た時電気がついていたんですね。やはり公共のところ借りているわけでそういうことは気を//つけたほうがいいと。

(4. C)

//あーそれ、うちだ

わ。ごめんなさい、水曜っていったらうちよね。

この場合、CがAの「間接的な標的」に相当する。

- 2 本データベースの著作権は、技術研究組合新情報処理開発機構に帰属する。
- 3 杉戸は、「あいづち的発話」として、応答詞を中心とする発話、オーム返しや単純な聞きかえしの発話、感動詞だけの発話、笑い声、実質的な内容を積極的に表現する言語形式を含まず、また判断・要求・質問など聞き手に積極的なはたらきかけもしないような発話を挙げている。また、「実質的な発話」については、なんらかの実質的な内容を表す言語形式を含み、判断、説明、質問、回答、要求など事実の叙述や聞き手へのはたらきかけをする発話と規定している。
- 4 例えば、木暮（2002：p. 169）は、あいづち的発話のうち、「はい」「ええ」「うん」「そうですか」「そうですね」など表現形式が定まっている発話以外のものを聞き手ターンとしているが、この聞き手ターンを、話し手ターンと区別し、発言権を持たないものとして扱っている。
- 5 RWCP-SP01の発話単位データに記載されている発話開始ならびに終了時刻は、全体マイクの音声記録ではなく、個々の話者の個人用マイクの音声記録に基づいている。
- 6 RWCP-SP01のM1_all.txtのm01のテキストデータには、1箇所m01の発話単位に関する入力ミスが存在した。それは、本来、62番のf01の発話単位中に、{m01 185 ん}として挿入されていなければならない発声単位が、71番のm01の独立した発話単位として取り出されているというものである。これについては、著者が音声データならびにM1_m01.txtのテキストデータから入力上の誤りであることを確認した。従って、本研究ではこの誤りを修正したデータに基づき、調査を行った。

参 考 文 献

- 李志暎（2007）「ビジネス・ミーティングにおけるトピックの展開―課題決定場面を中心とした韓日の違い―」お茶の水女子大学編『人間文化論叢』9, pp. 291-303
- 今西幸子（1993）「聞き手の行動―あいづちの規定条件―」大阪大学大学院文学研究科日本語学講座編『阪大日本語研究』5, pp. 95-109
- 大浜るい子・西村史子（2005）「日英のターン交替と相づち使用の実相―日本人学生とニュージーランド学生の比較を通して―」『社会言語科学』7-2, pp. 78-87
- 木暮律子（2002）「母語場面と接触場面の会話における話者交替―話者交替をめぐる概念の整理と発話権の取得―」名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻編『言語と文化』3, pp. 163-180
- 近藤 彩（2004）「会議におけるコミュニケーションスタイルに関する事例研究」アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター編『アメリカ・カナダ大学連合日本研究

- センター紀要』27, pp. 24-40
- 杉戸清樹 (1987)「発話の受け継ぎ」『国立国語研究所報告92 談話行動の諸相―座談資料の分析―』三省堂, pp. 68-106
- 津田 葵 (1989)「4. 4. 5 ムーヴ (move)」柴谷方良・大津由紀雄・津田 葵編『英語学大系第6巻―英語学の関連分野―』大修館書店, pp. 418-419
- 中田智子 (1990)「発話の特徴記述について―単位としての move と分析の観点―」『日本語学』9-11, 明治書院, pp. 112-119
- 森下雅子 (2000)「ミーティングにおける相互行為から見た日本語ボランティアグループ」お茶の水女子大学日本言語文化学会編『言語文化と日本語教育』20, pp. 66-78
- 吉田奈央・高橋克也・伝 康晴 (2009)「対話におけるあいづち表現の認定とその問題点について」言語処理学会編『言語処理学会第15回年次大会 発表論文集』pp. 430-433
- 渡邊ゆかり (2014)「少人数企画会議における、とりまとめ役の談話管理スタイルととりまとめ役の発話単位量とムーブの観点から―」言語処理学会編『言語処理学会第20回年次大会 発表論文集』pp. 666-669